



平成23年11月18日

各 位

会 社 名 日本産業ホールディングズ株式会社
代表者名 代表取締役社長 渋谷 猛
コード番号 4352 札幌証券取引所
問合せ先 経営管理本部長 松本 敬一
(TEL 03-5302-1901)

前監査法人より提出された意見に対する当社の見解に関するお知らせ

当社は、前会計監査人から提出された退任に際し述べられた意見の中で「当監査法人は、会社の平成21年12月以降の会社の株主・債権者から抛出された資金に基づく投資及びその解消について、その目的及び経済合理性等に関して経営者から十分な説明を受けておりません。」という意見（平成22年8月11日開示）に対して、当社会計監査人による精査内容の報告並びに当社より、その内容について一連の経緯並びに見解を述べさせていただきます。

(1) 株式引受に至る経緯

当社は、当時（平成21年10月頃）、情報技術事業、コンサルティング事業、及び投資事業を主要業務として営んでおり、事業運営の改善を図ることに注力しておりました。しかしながら、情報技術事業において、事業の再構築が進まず、コンサルティング事業において会計業務全般にわたるコンサルティングサービスが頭打ちで新たなサービスを構築するには至っておらず、投資事業においては、収益を確保することができず、3期（平成19年6月期～平成21年6月期）連続して営業損失、経常損失及び当期純損失を計上しておりました。そのような状況下、当社は、早期に安定収益を実現できる経営基盤を確立するべく事業の再構築及び拡大というテーマに取り組んでおり、既存事業の再構築と新たな事業の開拓を目指しておりました。そして、新たな事業の開拓を行うには、将来性、成長性のある中小・中堅企業と接触し、その可能性のある有望中小・中堅企業等との新たな事業の提携及びその買収を視野に入れた活動の強化をすすめておりました。当時、当社の取締役会長であった鮎川純太（平成22年2月25日付で当社代表取締役会長就任後、平成23年9月29日付で取締役会長就任）は、以前より親交があり当時の日本振興銀行株式会社（以下、「振興銀行」という。）会長職の立場にあった木村剛氏へ当社取締役会長就任の挨拶をきっかけに、意見交換を開始し、当社は振興銀行との間で有望中小・中堅企業等の情報の交換や被買収企業の発掘などの協力関係の構築及び将来の振興銀行からの融資実行の可能性を検討するに至りました。振興銀行にその旨の打診等を行ったところ、歓迎する意向が明らかとなり、同時に振興銀行の実施する第三者割当増資の引受について検討の申し入れがありました。その後、平成21年12月24日開催の臨時取締役会にて「日本振興銀行株式会社 第三者割当増資引受の件」として議案提出され、日本振興銀行グループの将来性も鑑み、純投資としても魅力的であるとの判断から承認可決されるに至りました。振興銀行株式引受の概要は下記のとおりです。なお、振興銀行の引受価格は、振興銀行が外部の第三者機関に依頼した株価算定書（1株につき373,423円、平成21年11月9日算定結果）及び、振興銀行が過去に実施した直近の第三者割当増資価格（1株につき291,000円、平成21年10月27日払込）を参考に、当社取締役会で議論を重ねて、引受価格を決定いたしました。

決議日	平成21年12月24日
払込日	平成21年12月29日
引受価格	1株につき 335,000円
引受株式数	普通株式2,986株（保有割合：1.67%）
引受価格の総額	1,000,310,000円

(2) 株式引受に至る資金の流れ

振興銀行株式引受資金に関しては当時の当社新株予約権割当先であった中小企業共済株式会社（以下、「共済」

という。)より8億円を投資資金として借入(借入日は平成21年12月28日、利率1.7%)を行い、また、当社の新株予約権の行使(行使日平成21年12月28日、行使価格3,059円、約総額2.3億円)を実行していただき、それらの資金を活用し、当該株式を引受するに至っております。共済の概要は下記のとおりです。

(概要) ※平成21年12月28日現在

商号 中小企業共済株式会社
本店所在地 東京都港区北青山3-6-7
代表者 湯浅慎司
設立年月日 平成21年9月8日
事業内容 a. 企業の営業譲渡、資産売買、資本参加、業務提携及び合併等に関する仲介、斡旋並びに投資業
b. 企業経営の調査、指導に関する業務及びコンサルタント業務
c. 一般労働者派遣事業及び特定労働者派遣事業
資本金 100万円
株主 日産興業株式会社100%

共済はテクノベンチャー株式会社(以下「テクノベンチャー」という。)より11.75億円の資金を借入しております。テクノベンチャーの概要は下記の通りです。なお、テクノベンチャーは当時、日本振興銀行株式会社、中小企業保証機構株式会社、鮎川純太から資金を調達(借入)していたと報告を受けております。

(概要) ※平成21年12月25日現在

商号 テクノベンチャー株式会社
本店所在地 東京都千代田区大手町1-7-2
代表者 鮎川純太
設立年月日 昭和16年12月
事業内容 企業の育成支援及び投資業
資本金 100百万円
株主 鮎川純太(100%)

(2) 株式売却の経緯

当社は、当時(平成22年5月頃)、情報技術事業において、新規事業の立ち上がりが遅れ、コンサルティング事業においても新たな顧客獲得に至らず、当初予定していたより事業収益の改善、回復状況が遅れておりました。その状況下、当社は当該株式引受額の一部を借入金(8億円の借入)として調達したことに伴い、新たに帳簿上560万円程の金利負担(平成21年12月29日から平成22年5月末)が生じ、当社の業績がさらに悪化する懸念が拡大していたこと、有望な成長企業の発掘に向けて両社の利害関係があまり一致しなかったこと、及び振興銀行から当社への融資実現性が乏しかったことを踏まえて、当初の振興銀行株式の保有方針を変更し、期末(平成22年6月末日)前に当該株式を売却し、借入金の返済を優先すべきとの意見が社内で提議されました。これを論点に平成22年5月13日開催の臨時取締役会にて「日本振興銀行株式売却の件」として提出され、振興銀行株式を早急に売却して借入金返済に充当することが不可欠であるという結論に至りました。結果、下記のとおり、承認可決されました。なお、売却価格に関しては、当社の当該株式引受価格を参考に、当社が負担した金利分を考慮し決定させていただきました。

売却先 日産アセット株式会社
売却日 平成22年5月27日
売却株式数 所有株式全株(2,986株)
売却額 1,006,087,910円

(売却先概要) ※平成22年5月27日現在

商号 日産アセット株式会社
本店所在地 東京都港区西麻布1-3-10
代表者 鮎川純太
設立年月日 平成21年9月8日

事業内容	企業の育成支援及び投資業
資本金	100万円
株主	中小企業共済株式会社 100%

(3) 売却先選定の理由

当社が、日産アセット株式会社（以下「日産アセット」という。）を当該株式の売却先として決定するに至った事由は、以下の二点を主たる要因とするものであります。

1. 振興銀行より当社株主との関連性の有る処に事情が許す限りひき続き所持していただきたいと強い意向があり、日産アセットからの賛同が得られたこと。
2. 当該売却の事由に当社の財務負担軽減が目的にあり、速やかな売却が重要であるとの認識のもと、日産アセットからは、当該株式の買取り条件等について迅速な意思表示が得られたこと。

なお、当該株式に関して当社と日産アセット間で、通常の株式譲渡契約を結んでおり、将来の当該株式買戻しや損失補てんに類する契約などの条項はなく、一部ネットなどで指摘されているような損失隠し行為（飛ばし行為）には一切該当いたしません。

(4) 当社会計監査人による精査内容

当社は当社会計監査人（当時の一時会計監査人）に、当該株式の引受、売却、売却先の選定に至る一連の過程を精査していただきました。当社は当社会計監査人と当時の当社顧問弁護士である明石一秀氏（隼あすか法律事務所）との間で十分な議論を積み重ね、当該株式の一連の手続きに関して、社内手続き上においても法律上においても、何ら問題ないことを確認した上で、当社会計監査人より財務諸表監査上、問題ないとの見解をいただいております。

(5) 当社の見解

当社は前会計監査人に対して会計記録、監査の実施に必要な書類、取締役会議事録、重要な稟議書及び契約書等をすべて提出しましたが、振興銀行株式の引受、売却に関する一連の手続きに関して前会計監査人より特段の指摘を受けておりませんでした。また、当社は、前会計監査人が当社監査役会に対して、当該株式の一連の取引を含む手続き内容に関して、疑義があると指摘した事実も確認しておりません。

にもかかわらず、前会計監査人は、その退任に際し唐突に、当該株式等の売却の目的及び経済合理性に関して、当社経営者より説明を受けていない旨の意見を出しております。

前会計監査人が、この様な事実と反する内容の意見を表明した事は、当社として、極めて遺憾とするものであります。

なお、当社は平成23年9月29日開催の定時株主総会において、当社の経営陣に大幅な変更が生じ、新経営体制下で、再出発する組織作りを構築しております。その状況下において、当社は当該取引の一連の手続きに関する懸念を払拭するために、改めて当社及び当社取締役会長である鮎川純太と利害関係のない弁護士の佐藤誠治氏（東京法律会計事務所）にその内容を精査していただき、架空増資などの法令違反等も含めて、手続き上問題がないとの見解をいただいております。

以上